

7 愛防第 17 号
令和 7 年 10 月 16 日

各関係機関・団体長 殿

愛媛県病害虫防除所長

発生予察情報の送付について

病害虫発生予察注意報（第 3 号）を下記のとおり発表したので送付いたします。

令和 7 年度 病害虫発生予察注意報（第 3 号）

令和 7 年 10 月 16 日
愛 媛 県

病害虫名 チョウ目害虫（シロイチモジヨトウ、オオタバコガ）

作 物 野菜類、花き類など

1 発生地域 県下全域

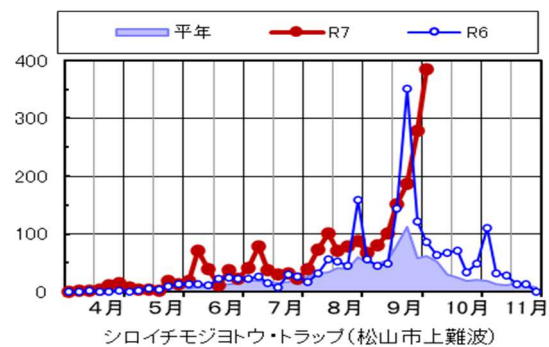
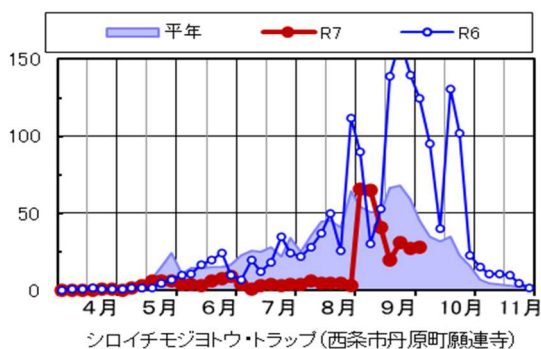
2 発生程度 やや多～多

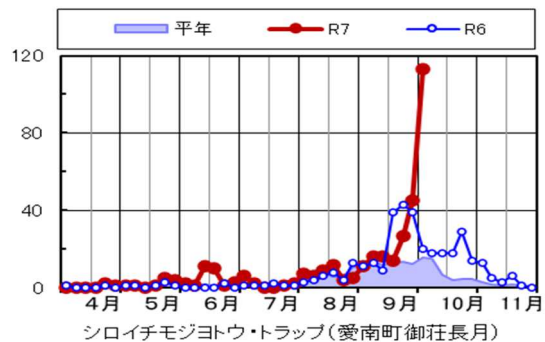
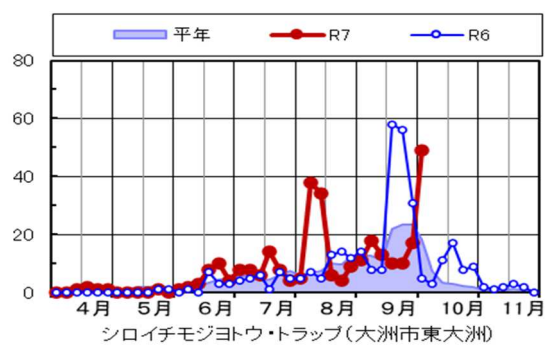
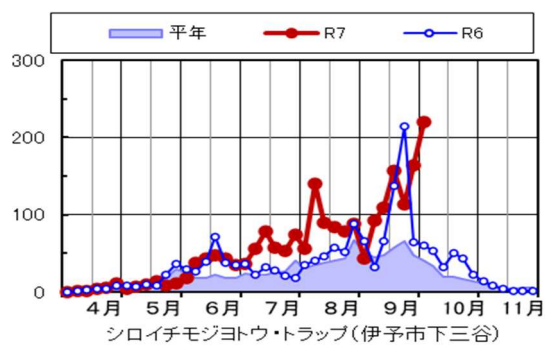
3 注意報発表の根拠

- 1) 9 月第 6 半旬～10 月第 1 半旬のフェロモントラップによる誘殺数は、シロイチモジヨトウは 5 地点中 4 地点で多く平年比の 1.6～5.7 倍となっている（図 1）。オオタバコガでは 5 地点中 4 地点で多く平年比の 1.4～2.5 倍となっている（図 2）（病害虫防除所ホームページの調査データを参照）。
- 2) 1 か月予報（10 月 9 日、高松地方気象台発表）では、気温は高い、降水量は平年並か多い見込みとされており、本虫の発生にやや助長的である。

4 防除上の注意

- 1) 両種の幼虫は広食性で、シロイチモジヨトウはネギ、キャベツ、ブロッコリーなどを、オオタバコガはレタスやブロッコリー、キクなどを加害する。
- 2) 両虫は食入することがよくあり、農薬効果が上がりにくいいため、結球部や花蕾等の被害痕や虫糞に注意し、その周辺に存在する幼虫を捕殺する。
- 3) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、同一系統の薬剤の連用は避けるとともに、中・老齢幼虫になると農薬の効果が低下するので、圃場観察を行い若齢期に防除を行う。
- 4) 圃場周辺の雑草は本虫の発生源となるため、除草を行う。





注) 西条市は本年より交信攪乱剤を使用している
図1 シロイチモジヨトウのフェロモントラップによる誘殺状況

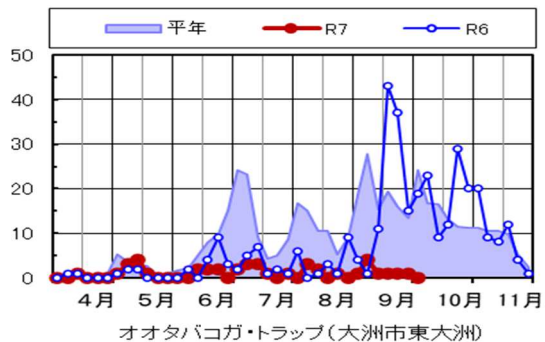
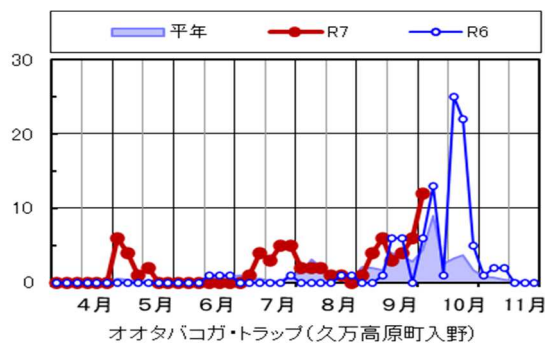
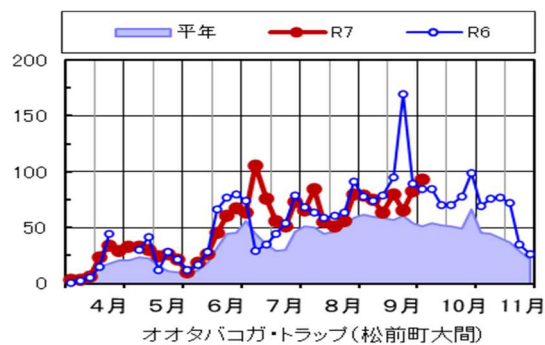
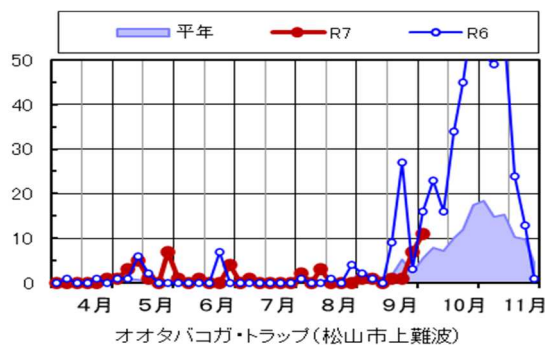
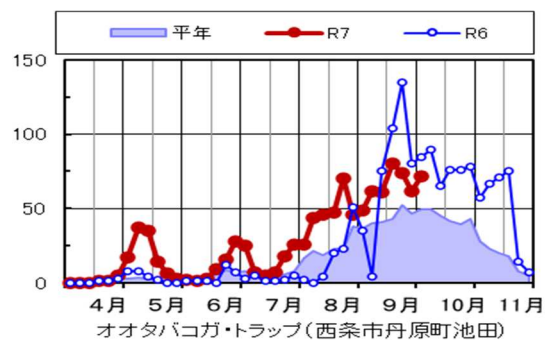


図2 オオタバコガのフェロモントラップによる誘殺状況